

A4- 1-5

リハビリテーションによって得られる質調整生存年 (QALYs) の延長

○能登真一 (OT)¹⁾, 泉 良太 (OT)¹⁾, 上村隆元 (Dr.)²⁾

¹⁾新潟医療福祉大学医療技術学部, ²⁾杏林大学医学部

Key words: リハビリテーション, QOL, (QALYs)

【はじめに】近年, 先進各国においては, さまざまな医療技術についての臨床経済学的評価が盛んである。財政がひっ迫しているわが国においても, 臨床経済学的評価が求められる日も遠くないはずである。その際には, リハビリテーション介入によってどれだけの効果が上がり, そのためにどれくらいの費用がかかったのか, さらにそれは他の医療技術に比べて割安なのか割高なのかという議論が必要となる。そのためには標準化された方法による分析が必要で, 今から準備できることも少なくない。その一つに臨床経済学で用いられる健康関連QOLの評価とそれを基にした健康寿命の測定がある。今回, 回復期リハビリテーションについて, その効果を健康寿命指標の一つである質調整生存年 (Quality-Adjusted Life Years : QALYs) という指標で求めることを目的に研究を実施した。

【方法】2005年から2006年にかけて, 回復期リハビリテーション病棟を持つ全国の6つの病院で実施された研究データを元に検討した。QALYsは健康関連QOLの一つである健康効用値に, 生存年を乗じて算出することができる。本研究では, 健康効用値の測定にHealth Utilities Index Mark3を, 生存年には平成18年生命表を利用した上で, リハビリテーション介入によって得られた効果を増分QALYsとしてその推定値を求めた。推定値の計算にはブートストラップ法を用いた。なお, 調査に当たっては対象者の同意を得た。

【結果】対象者は481名で平均年齢は73.7±12.5歳であった。疾患ごとの内訳は, 脳血管疾患が337名 (男性202名), 大腿骨頸部骨折: 144名 (男性23名) であった。入院までの期間はそれぞれ35.1日, 23.9日であり, 入院期間についてはそれぞれ72.6日, 41.2日となった。疾患ごとの健康効用値の変化は, 脳血管疾患が入院時0.07から0.31に, 大腿骨頸部骨折は同様に0.13から0.32となりそれぞれ改善した。対象者全体の健康効用値改善の推定値は0.221 (95%CI=0.204~0.239) となった。またQALYsの推定値は4.193 (95%CI=3.724~4.738) となった。

【考察】QALYsは健康寿命を表す指標の一つで, 費用効用分析に用いられるものである。費用効用分析では1 QALY当たりの費用を求め, その費用効果比を検討する。今回示されたような回復期リハビリテーション介入によって得られる4QALYの増分は, 健康効用理論上, 完全に健康な状態で生存する4年分に等しいことを意味する。今後は, この効果が他の医療技術と遜色ない, あるいはそれよりも優れているかどうかについて検討していく必要があると考えている。